

第270回 東京六稜倶楽部講演会（2025年6月18日）

利己と利他

—イギリス・中国・日本—

柘植尚則（95期）

はじめに

「利他」 ブーム？

「利他」とは何か

中島岳志
Nakajima Takeshi
國分功一郎
Kokubun Koichiro

伊藤亜紗 編
Ito Asa
若松英輔
Wakamatsu Eisuke
磯崎憲一郎
Isozaki Kenichiro

コロナ時代――
他者と共に
生きる術とは？



集英社新書

伊藤亜紗編

『「利他」とは何か』

(集英社新書、2021年)



中島岳志

『利他がけず思い』

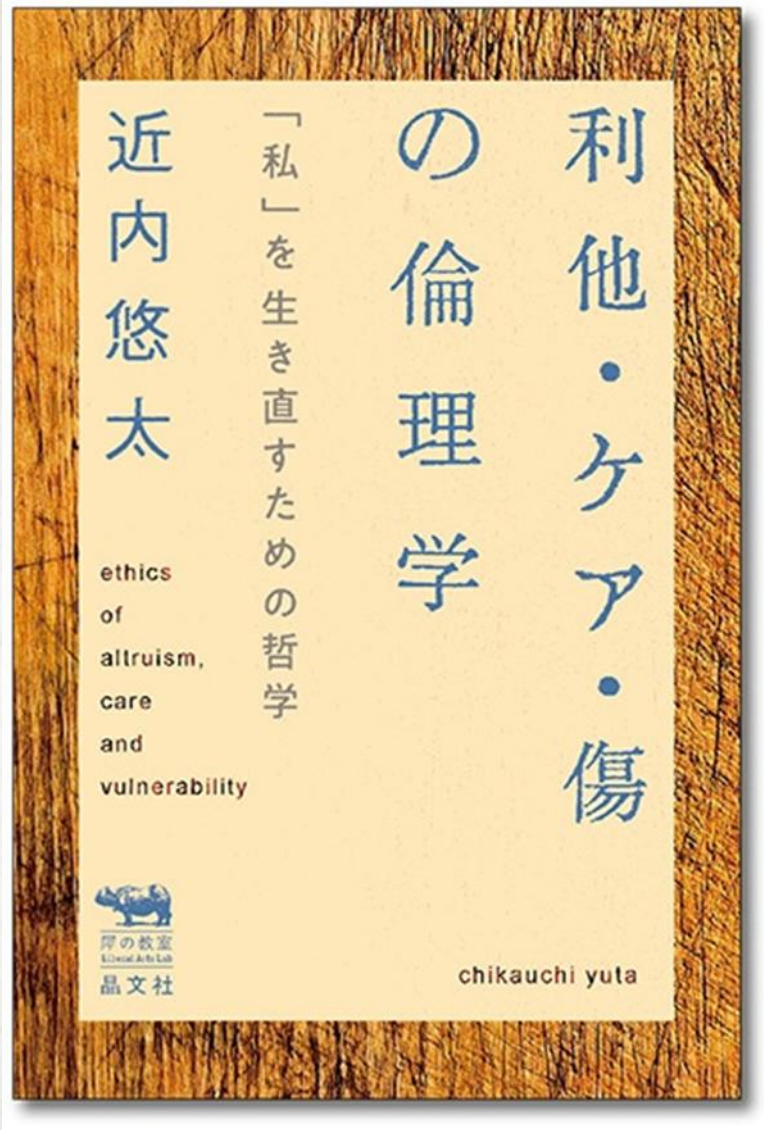
(ミシマ社、2021年)



若松英輔

『はじめての利他学』

(NHK出版、2022年)



近内悠太

『利他・ケア・傷の倫理学』

（晶文社、2024年）

利他とは

- ①自分を犠牲にして他人に利益を与えること。
他人の幸福を願うこと。
- ②（阿弥陀仏が）人々に功德・利益を施して、
済度すること。

（『広辞苑』第6版）

利己とは

自分一人だけの利益を計ること。

自利。主我。

⇔ 利他

（『広辞苑』第6版）

利己と利他をめぐって

- ・ イギリス（近代）の場合
 - ・ 中国（古代）の場合
 - ・ 日本（平安～江戸時代）の場合
-

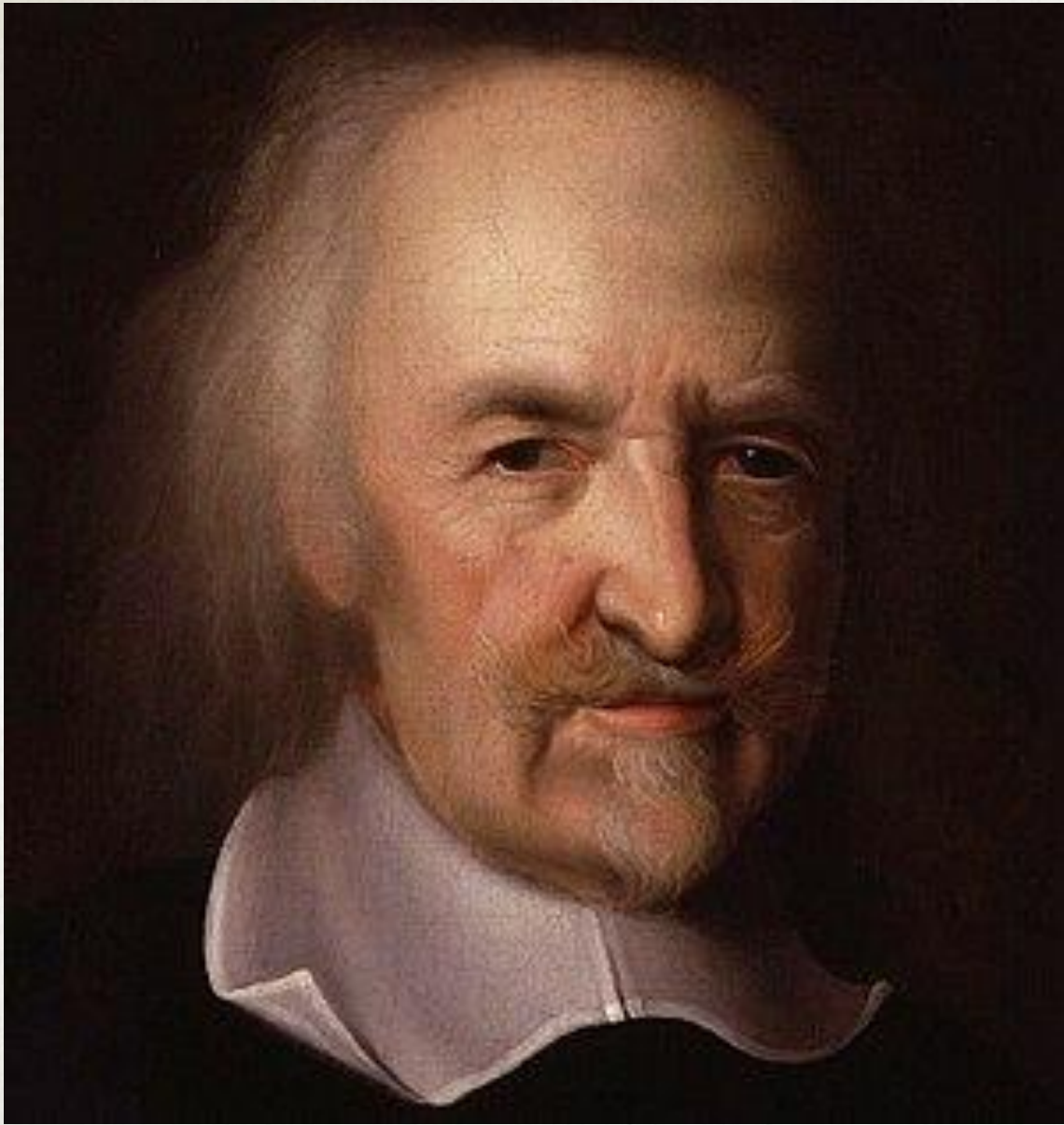
1. イギリス

近代のイギリス

- ・ 市民社会の成立・発展
 - ・ 個人主義の興隆
 - ・ 個人の利益と社会の利益の対立
-

モラリストたちの論争

- ・ 人間は生まれつき利己的か、それとも、利他的で社会的か？
 - ・ 利己的な人間がいかにして利他的で社会的になるのか？
 - ・ 個人の利益と社会の利益は一致するのか？
-



ホッブズ
(1588-1679)

近代政治哲学の父

ホッブズ

- ・ 人間は自己の保存を目的とする。
 - ・ 人間は必ず自分の善を意志する。
 - ・ 人間は自分の善のために他人の善を欲する。
-

ホッブズの言葉

自分にとっての善を意図せずに贈与する者はいない。というのも、贈与は意志的なものであり、すべての意志的な行為にあっては、その対象は、あらゆる人にとって、自分自身の善だからである。

（『リヴァイアサン』）



シャフツベリ (1671-1713)

代表的なモラリスト

シャフツベリ

- ・ 人間は自然に群れをなす。
 - ・ 他者への愛は人間を幸福にする。
 - ・ 自己への過度の愛は人間を不幸にする。
-



マンデヴィル (1670-1733)

風刺家、経済思想家

マンデヴィル

- ・ 人間は利己的であるから社会的になる。
 - ・ 利己心は社会に利益をもたらす。
 - ・ 政治が人間を従順で有用にする。
-

マンデヴィルの言葉

悪の根である貪欲、あの呪われた意地の悪い有害な悪徳は、あの気高い罪たる放蕩の奴隷であった。一方、奢侈は百万の貧者を雇い、憎むべき高慢はもう百万を雇った。嫉妬そのものと虚栄は、勤労の召使いであった。そのお気に入りの愚行たる気まぐれ、食べ物や家具や衣服の気まぐれ、あの奇妙で滑稽な悪徳は、商売を動かす、まさに車輪とされた。

（『蜂の寓話』）



バトラー

(1670-1733)

神学者、道德哲学者

バトラー

- ・ 自己愛は合理的である。
 - ・ 自己愛と仁愛は一致する。
 - ・ 良心と自己愛は一致する。
-

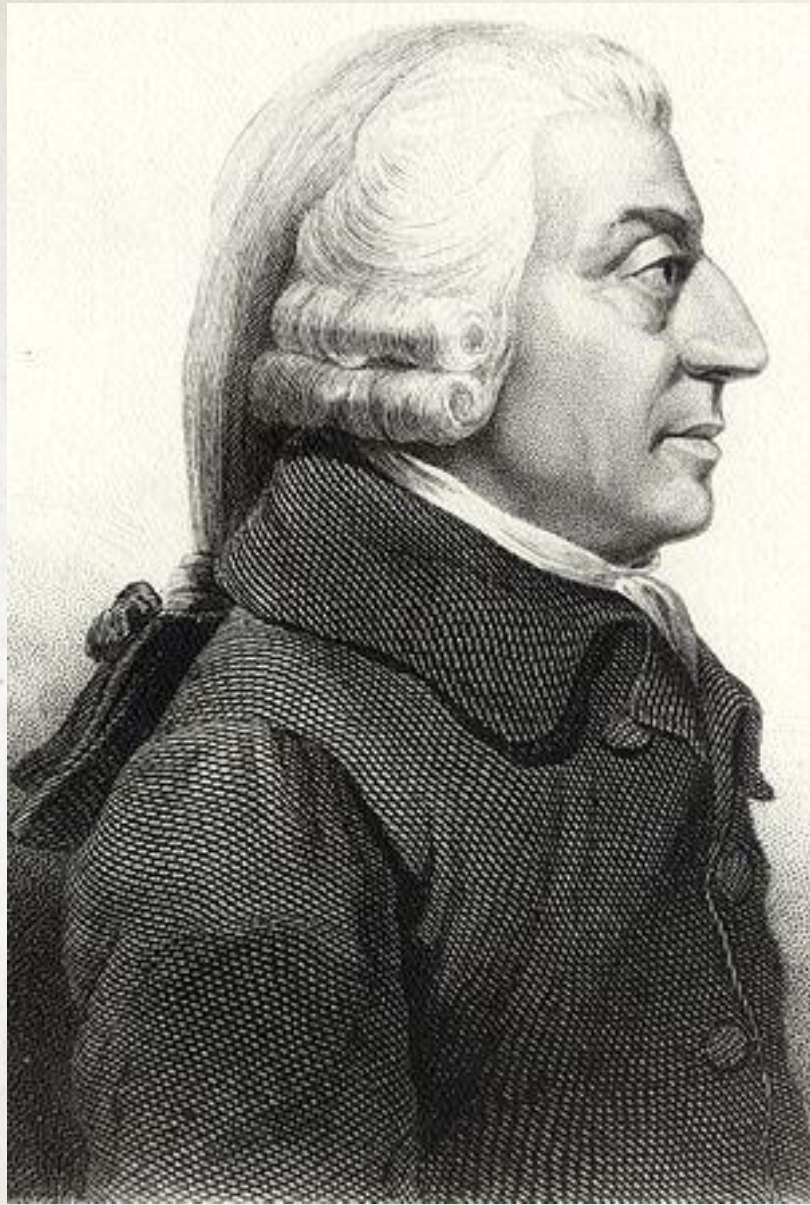


ヒューム
(1711-1776)

**イギリスを代表する
哲学者**

ヒューム

- ・ 人間は利己的でも社会的でもある。
 - ・ 利己心は自らを抑制する。
 - ・ 人間は他人や社会の利益に共感する。
-



アダム・スミス
(1723-1790)

経済学の父

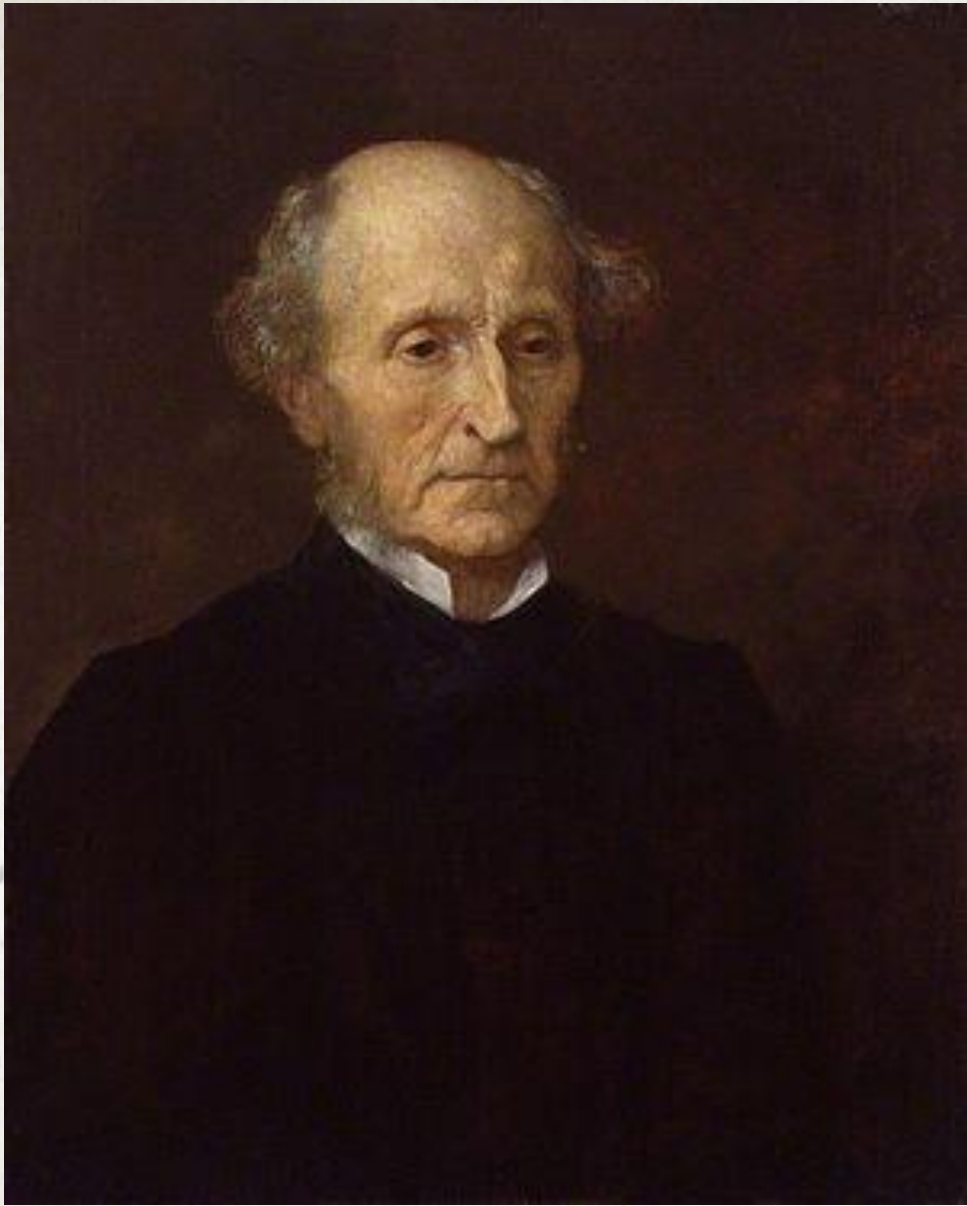
アダム・スミス

- ・ 人間は共感を求めて自己愛を抑える。
 - ・ 人間は良心によって自己愛を抑える。
 - ・ 個人の利益と社会の利益は一致する。
-

スミスの言葉

たしかに、彼はふつう、公共の利益を促進しようとい図していないし、それをどれだけ促進しているのかも知らない。国外よりも国内の産業を支持しようとすることで、彼は自分の安全だけを意図しているのであり、また、生産物が最大の価値を持つような仕方で、その産業を方向づけることで、彼は自分の利得だけを意図しているのであるが、この場合にも、他の多くの場合と同じく、彼は見えざる手に導かれて、自分の意図にはなかった目的を促進するのである。

（『国富論』）



ミル

(1806-1873)

哲学者、功利主義者

ミル

- ・ 人間は生まれつき利己的なのではない。
 - ・ 人間は他者との一体感を通じて社会的になる。
 - ・ 法や教育が人間を社会的にする。
-



ブラッドリー

(1846-1924)

哲学者、理想主義者

ブラッドリー

- ・ 自己実現が人間の究極の目的である。
 - ・ 実現される自己は社会的な自己である。
 - ・ 自己犠牲は自己実現の一つである。
-

論争の特徴

- ・ 利己心の肯定
 - ・ 利己心の正当化
 - ・ 利己心に対する制約
-

2. 中国

古代の中国

- ・ 春秋戦国時代（紀元前8～3世紀）
 - ・ 群雄割拠、富国強兵
-

諸子百家の活躍

- ・ 儒家、道家、法家、墨家など
 - ・ 人間とはどのような存在か？
 - ・ 君子は国をどのように統治すべきか？
-



孟子

(紀元前372年頃-289年頃)

戦国時代の儒学者

孟子

- ・ 人間には生まれつき他人を憐れむ心がある。
 - ・ 君子は仁義によって統治すべきである。
 - ・ 君子は利よりも義を重んじるべきである。
 - ・ 良き統治のためには、人々の欲を少なくするのが望ましい。
-



荀子

(紀元前298(313?)年-238年以降)

戦国時代の儒学者

荀子

- ・ 人間は生まれつき自分の利益を求め、他人を妬むものである。
 - ・ 君子は礼によって統治すべきである。
 - ・ 良き統治のためには、人々の欲を抑えるしかない。
-



墨子

(紀元前470年頃-390年頃)

墨家の開祖

墨子

- ・ 国の乱れは、人々が自分だけを愛し、他人を愛さないことから生まれる。
 - ・ 人々が自分を愛するように他人を広く愛することで、国は良く治まる。
 - ・ 人々は互いの利益を尊重すべきである。
-

議論の特徴

- ・ 統治のあり方、君子の生き方
 - ・ 人間本性、仁義／礼、義／利、
欲、利己／利他 …
-

3. 日本

平安～江戸時代の日本

- ・ 日本仏教の形成（平安時代）
 - ・ 日本仏教の展開（鎌倉時代）
 - ・ 商人道徳の誕生（江戸時代）
-

仏教者・思想家の理想

- ・ 大乘仏教の影響
 - ・ 一切の衆生を救済すること
 - ・ 自己と他者とともに利すること
-



最澄

(766/7-822)

天台宗の開祖

最澄

「忘己利他」

自分を忘れ、他人を利するのが、慈悲の極みである。

(若松、2022年、21-22頁)



空海
(774-835)

真言宗の開祖

空 海

「自利利他」

自利と利他が一つになるとき、自利も利他も同時に成就する。

(若松、2022年、23-24頁)



道元
(1200-1253)
曹洞宗の開祖

道元

「愛語」

愛語とは、他人を見て慈しみの心を起こし、
愛情あふれる言葉で接することである。

(若松、2022年、33-34頁)



鈴木 正三
(1579-1655)

江戸初期の禅僧

鈴木 正三

- ・ どのような職業でも、それに専心するときには、仏道修行になる。
- ・ 商売を天職と考え、国や民のために商いに専心すれば、利益が与えられ、悟りに至る。



石田 梅岩
(1685-1744)

江戸中期の思想家

石田 梅岩

- ・ 商人の道とは売買で利益を得ることであり、商人の利益は武士の俸禄と同じである。
- ・ 先も立ち、我も立つことをめざすのが、まことの商人である。

議論の特徴

- ・ 利他への道
 - ・ 自己と他者は一体である。
 - ・ 利己と利他はつながっている。
-

おわりに

利己と利他の一一致？

利己と利他的一致

- ・ 自分の生命を維持することは、他人や社会が存続するために必要である。
- ・ 人々が自分の利益を求めることで、経済が発展し、社会は豊かになる。

利己と利他的一致

- ・ 他人に親切にすることは、自分にも大きな喜びを与える。
 - ・ 他人を幸福にすることは、自分の人生にも大きな意味を与える。
-

利己の危険

行き過ぎた利己心は …

- ・ 自分と他人のつながりを失わせる。
 - ・ 人々を分断し孤立させ、社会を崩壊させる。
 - ・ 不平等や格差を生み出す。
-

利他の危険

行き過ぎた利他心は …

- ・ 単なる自己満足に陥る。
 - ・ 人々の間に支配と服従の関係を生み出す。
 - ・ 人々に自己犠牲を強いる。
-

わたしたちの課題

- ・ 利己心をどのように制約すべきか。
 - ・ 利他心をどのように育成すべきか。
 - ・ 利己と利他をどのように一致させるべきか。
-

参考文献

- ・ 若松英輔 『はじめての利他学』 (NHK出版、2022年)
- ・ 柘植尚則 『人間は利己的吗：イギリス・モラリストの論争を読む』 (慶應義塾大学出版会、2022年)
- ・ 柘植尚則 『プレップ経済倫理学』 (弘文堂、2014年)

ご清聴

ありがとうございました
